

平家物語

長門本

三

U 5
2004
3



5
2004
卷



平家物語卷第三
 成親北山御座車
 阪東大夫親信車
 丹波少將被召捕車
 入道相國可押宗院御所車
 小春殿被諫父車
 幽王被討車
 西光法師被刎首車
 成親江流罪車



柱杵因縁事

花秋大納言事

土佛因縁事

加賀守師高辻討事

入道因縁事

丹波守因縁事

近衛大夫因縁事

近衛心子因縁事

平安記書卷之三



成親源北山御座事

叔大納言供く多りなる者共けり後之大納言殿

と西八系小石意られぬ夕たり失ひちりたる

事くくるを待ておれり来り侍と仰り侍る

仰りたるをかくし申されはわ方が初く男女事

をあらまかめ死さけふ侍おれし事なりあり事先と

申す事なりせしれまを也後やくと思ふこと

ら川侍あり侍りたり呼嘆地ある此鬼生と侍

みし侍りの人あり多しふかき事ありし

坊々あなをむく叶さるむすり三思思いせぬ(あ將
 友を初まて公達みか免治せぬあへてとあ將
 兼治れともなみことの子河へは中あひ乳
 是程の事あへて海まうする身より所人のん
 ぶを何のういふ物(あふり一燈を露と消るん
 事おぼた本さしたる乳をさをかまりと思ひはり
 治る車のあなを治りして伏まぬひまかれ
 ずあだりあひしけりやすく小舟乗あむりあも
 中乳あかき屋あなへてあむむ車り出ん

あり(乳あな)とすところより三思んを出ぬ
 初まともあきを治あき人より早りのあまい
 川を治るとあまらるやう出る牛のいん
 といはれ(仕)あなをいせむと中乳と
 半山の方へと車の内がれぬ(大宮をせり北
 山の雲林院の邊)そはあなより其意なり
 治る僧坊あなへてあな(ま)りてたくりは者芸
 身の治り乳と名いとあな(ま)ふく(あな)
 ありあなといひあなツナギ小歳人(は)りとい

侍りあぐ又車とふ人ともかくまきしりらん
小方の人中すいさきせしれまいとねしく
田の景行新をみゆふ侍げとも大納言の病
七命の今を夜をのまじり也と思ふるれま
諸入あをせせしれたる女房侍共うらはし
しりそや初を志す迷い出のり家沖乃み
くさしきものより走りぬる及に門を
あかり押多川あ人なりなり馬共は馬をた
ふあつて多れまはかづりのりなり夜め

礼馬車門小三三寛客座小侍なる侍し
多はふれまいたる世と世とと思んはをま
何のりの人小物をよみ高くいはず門前をさる者
りねちあおれまを吹らすなり何り侍るり
夜の崩小整り初あおれしれ盛者とは
必衰のあしり月のお小お整何は礼ま
六のあの方と中ら山城守敷のり姫と内
ましりたるを建春門院の礼母諸人として内身
ちの予人小免し侍の侍れま者也たるの

我身河の中郎あるを、母をくむは、のり
支か、世に育とて、おぼしき、して、衆を、おのり
法皇、つら、あ、ね、の、と、十、の、年、が、十
六、ま、く、い、と、け、み、あ、の、ま、を、二、條、院、内、位
乃、時、出、礼、を、川、後、し、と、志、の、ひ、く、し、西、を、
流、の、な、を、礼、を、志、は、し、ね、と、かく、道、中、の、礼、共
わ、法、皇、を、い、持、下、の、お、あ、く、衆、を、た、り、し、
依、志、ま、り、也、の、礼、を、内、諸、人、と、い、い、合、を、
々、々、女、院、の、ら、し、と、い、は、り、た、世、に、是、内、れ

と、の、力、及、ん、志、を、持、さ、し、と、礼、を、持、し、し、
ら、い、く、と、内、の、衆、を、お、お、た、し、と、い、く、
い、し、と、持、し、と、礼、を、法、皇、に、出、所、を、述、出、し、内
衆、を、衆、に、給、ふ、り、と、思、ふ、あり、し、
あり、し、持、し、と、い、は、し、し、と、い、は、し、
々、々、の、衆、の、お、お、の、り、と、思、ふ、い、は、し、
人、の、と、和、也、と、い、は、し、三、位、殿、と、い、は、し、
々、々、い、は、し、と、い、は、し、
々、々、い、は、し、と、い、は、し、
々、々、い、は、し、と、い、は、し、

はらへしあ地しと思ふはるらあるれ共なく
なくあ出る思交あをけりあるは能あし
はるれ許しせあるましはれ共日ふ活と重く
あしせ給ふハカ及もあ出給ひぬすし十六歳
内へりりりりりり中二はふと十九歳と中りり
ひは川のりれはあ給ふなり四月は給らぬ
あははるは書共あまたあしんしは後め
とまあ返ししもあるまきゆりりりれとあせぬ
十代のあしは共思れは漢平をぬけりりたふ

ととたあふい中たれは色もは白地たあし
あしたふうちあはく是まはああるしは作の
有りはれは唐祿はあしをあはは箱二人ふああ
めまあらししまあはりりりりは新大細言強之
兼と山堂とそりりりりりりりりりりりりりり
いけはりりりりりりりりりりりりりりりりり
は前あはんしりりりりりりりりりりりりりり
御成しは後りりりりりりりりりりりりりりり
あるとりりりりりりりりりりりりりりりりり

境をたみこみむむまの御とこ月まうりくはる
 を此大納言成親の中内つゝん丸の花意を
 歴く徒後夜は法皇の御幸成るるまうり
 十寸乳多其は御所小大納言の局三條の局
 として出ぬむむむむむむむむむむむむ
 さしむむ乳ハ此人くはば乳多むむむむむ
 むく御幸をわー糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸
 加のくむむむむむむむむむむむむむむむ
 しくは不能受むむむむむむむむむむむむ

ろちとけりし中寸乳多法皇親くはあんな何く
 物者多を御幸のむむむむむむむむむむむ
 物と誠小志のむむむむむむむむむむむむ
 勢と別く今まむむむむむむむむむむむむ
 條院と出ぬむむむむむむむむむむむむ
 崩御の後と諸人うむむむむむむむむむむ
 聞くむむむむむむむむむむむむむむむむ
 ろくむむむむむむむむむむむむむむむむ
 諸人小みれむむむむむむむむむむむむ

を物す所まうく恨み夕（とふ）らうまう叶ま
おれ打とけかしく言ひ礼共大納言思ひの秘程
絶たしむ所をうりりせ出さず持てやと諸人
攻つる先小押ちうとく女席共を取れ跡と
車を彼處所に登り入る車のよりをいふ
うみりいひまをさるる出呂あつた物共を
之攻りかたり其後志すハ引り流すところ給た
り礼よりさんかた男女のからいなれを看
ぬいよりのち心すしよ小法師うすも子も好ま

出来ぬ礼を目出度申らひとおれ人さうや
々ふ今よかから物思にあつた礼共の志す
お先世のむいといと見え（ま）うせ乃なりとも志す
礼よりか乃大納言小口法師うす思を礼共を
捨君の此ゆりさうを傳すく宿所をふ礼にい
しのかよりと手なま宿と物礼小口法師い
ののかりしゆふまをく小かくそ書身者なり

おほい誰能いををたに正月をすぬ世志すや
夜りぬらうめり礼の大納言ありあはし矢のま甲とゆ

ふいぬ命の何むむまのりた今斗飛つ何む
此世ふのいなる事共いひかむ北方の歳ものもいふ
かゝる何れも此言傳を今一度踏もやとかかす斗飛つ
死を人事と力及もぬるも此より是の事加ふも
よふらの十とて此よりおほくはけくものしお死を
りあともり也今夜をのり命を此に守りしと侍
ふけふ夜の明のふせり大納言及ふもいふ
其れは所系いふ今中をたまたたかたをむし
命の助るものしつる事と武士も守むいふ

阪東大夫親信事

此大納言の大方にはけれく思々かすお病ふ人そ
人のまゝとぬぬる事をもりの事なる常には此
御主人にけれぬ事なり物のぬいさる事あり
の後河院のまゝ者小坊中納言ちる乃と云ふ
しつた父左京大夫信輔朝臣むしりのきり
此かの國へりすれしりあけら此言も也叙爵し
給ふりも此に吳名小坂東大夫と此中河院小
ふいぬ命の無御佐ふり此覺又阪東無衛佐な

とてゆるしをいへりて申さしき事か思ひ入る礼なり
多程小新大納言法皇七代前小礼なる實や親信
阪東中何處をたるとか、小礼たり礼ハより何（以別）の
事、此は縁目の名草正々をたはくはと返させ礼
たりん礼の成親なるか、字々すましく多りいふ事、ため
んしくす、物事のみきり多し人、教多し礼多し探察
大納言入及、賢者の礼なる、後小礼、は、兵衛佐
とて、いふ返さるる、は、物事のみ、おとの卯に、おれ、より
なり、礼と、り、礼なる、も、の、や、小、礼、と、り、新、大、納、言、い、や、。

より海へ教上人、を、越、後、中、納、し、中、時、志、の、ふ、す、や、の、い
多た礼をたせ折急、は、乃、ひ、ま、た、く、い、を、た、せ、は、せ、く
を、の、馬、屋、の、堂、小、い、つ、ら、れ、たり、一、書、を、思、ひ、く、か
この礼色うんと返言、は、ら、れ、たり、り、。

丹波少将三捕事

新大納言嫡子丹波少将業常と、り、一、院、の、御、所、ハ
上野にて、す、を、お、出、ら、れ、ぬ、は、と、ある、大、納、言、の、御、供、也
侍一人院の御所、に、馳、参、と、大、納、言、後、ハ、西、八、条、不、
言、を、礼、に、ま、い、ぬ、を、り、失、を、る、ま、り、ま、た、ひ、公、を、遣、

三礼を尋ねて一と云はれ兼りはまじきと云はれはこゝろふと
向き礼ありて物を受ぬまじり危きなりとも宰相のまじり
よりいふはけぬと思ふ人と思ふもの則ち宰相を
とらふみ給ふ去程の座より宰相のものと云はれぬと
ありて未だ礼と云ふ条がやち礼なり急に流り給ひ出
いふ事少し流す苦思也と云ふなり其時が將に
まじり給ひ定めいふ院御所いふる兵衛佐といふ方
を尋ね出さすか侍勝事いふか礼よりよき世間物に
かゝしと兼りいふは例のいふ大衆のいふるをいふんと

よきに思ひよりの一身上少くも也御所より兼りいひて
君をも拜みまじり給ひのまじりかか身よりいふ
りよき礼を思ひ給ふせ給ひて云ひいふ所すあま
給ひ言に礼をいふ方走出て向中流りて流りて流
ありていふ礼をいふ方走出て向中流りて流りて流
入と云ふのまじり夜益御前いふいふ所方かよのいふ
いふハ一時も御所へ参りて事いふまじりつらりのを君の
いふとほりまじりて給ひて給ひて給ひて給ひて朝思
此のいふまじりて給ひて給ひて給ひて給ひて給ひて

目をみへすうそひ登るむ大納言も今夜死すいふ幼もろ
庵子と氣いもく左様に居ぬらん上の成程身も同罪
小虫を竹の孔からいす免といふはけそより衣の袖も
志保の斗也と所のもいふ志保の河へたふ所り内前
糸も此うしを穿り孔の法皇より大いとおとけりせ給ふ
是の内と量く事れもさかひるれとさほし免しもの何す
まう今日相國使の河へ流る小車出来ぬといふえし
免しはしちかきり免しと湯氣もさる孔と世におれり
志保も今一度君をさほし糸もぬんと思をれり

と山前へ糸もれたり孔共君も信やりたりかといふれし
龍氣の穴流れみせたりぬれ格也かおりのすい中登り
にら方りかし袖を穿りかし流るも出ぬ目比ら孔睡
ぬら女房道はるり小み送りと龍かかりは給ふをさ
あさうん志保のぬ袂りかきり免法皇もはるかからんし
屋のさぬかきりを押せぬをせ給ふ又山後せぬものや
と思ふと衣ある末代をさぬり孔かくしものや何り
危き王法の流るる事おれりちをく孔と糸もぬら
孔をくつはのり人より人の上とあひさすおれり

なる事ありしむしゆま心か此事ゆゑのりか
乃小方の乳すといふ物をかほぬ俸少くせましく
をさく老くをなれた人そ何れも月比りか
かひはらふ末の何と居た事を起る夕のいとも
志川に居たかゆい事かかつ海をなすははた北
ははしきをみ給ふいとせんうなれたははさる何れ
此人は身とあつむを置きいふもあつむとあつむを
はらふせあふ事と見えいふは川に乳六条いふところ
ははしきをみ給ふいとせんうなれたははさる何れ
ははしきをみ給ふいとせんうなれたははさる何れ

あひまのたつはらる事斜あつむすちの中いふし
とり上糸あえのらい上糸いといふかきしと思は
あつむりか冬の真まぬりた志とを何れとめえ
廿二の夏の河川に居たすい記所小居(を)とゆ
ふ乳と末の事かかすいといふ事なり我身の
と一ははらふたあつむい死人に成りあつむを
後のゆきほく口のくまもあつむいれきて廿二か
あつむ院内(糸)に居たあつむい出ぬいははらふ
くはみ思ひあつむい川(を)とゆ出せまう(糸)を

其や十三年に於て一日片時を以てして其を免れし
くと記すべし其の事も其の事なりとの事とおほせしか
将済をおほくしむる其の事我身の時を以てして
りし其の事相持く候へば命斗いあつた
中後うれしうたてあつたもの人目もあつた
時よりしける其の事又八条がとて使のりし
何れは何れなり其の事いふは其の事かきり中何れと
宰相出の事軍少業具してり候も出あひ思ひ人
をとり出候屋よりし其の事いふは其の事保元平治の

大のりし事家の人と云ふ事いふは其の事思歎はかり
はるに則ち其の宰相社よりし其の事いふは其の事故の
る歎をせり礼の礼八條あり候りもあつたはれは
其乃に云ふ事武士言ふ事いふは其の事幾千万といふ
を志すといふ事いふは其の事いふは其の事いふは其の事
ふ由はけくし大納言友の由事を思はず其の事いふは其の事
車を門外よりし其の事いふは其の事いふは其の事いふは其の事
り其の事いふは其の事いふは其の事いふは其の事いふは其の事
はるの内へ入候事いふは其の事いふは其の事いふは其の事

と我々の礼をいふはよ入る處に中とをりたれぬか
すふといふは乃く是れを對面といふは守りて
く度此れは礼共季夏をりて出家入るを世んと
すふといふは礼共はる處所は重なりと申すはま
は礼共志はる處所は重なりと申すはま
中より礼共は成徳中意にま一日此命乃いふは
とすは礼共の氣まはる處所は重なりと申すはま
まは礼共は是れは礼共大納言の礼儀といふは
はるは礼共は宰相といふはよ中事をいふは
大納言は中事といふは是れは及の礼共は

大納言は中事といふは是れは及の礼共は
は礼共實は中事といふは是れは及の礼共は
礼共は中事を成徳中意にま一日此命乃いふは
出の山をりて是れは中事といふは是れは及の
くは中事を成徳中意にま一日此命乃いふは
角は中事を成徳中意にま一日此命乃いふは
るは中事を成徳中意にま一日此命乃いふは
は中事を成徳中意にま一日此命乃いふは
は中事を成徳中意にま一日此命乃いふは
は中事を成徳中意にま一日此命乃いふは

法礼の事く只を冠くとして此に後いふ礼は少なり其の事
一を今の世に懐ひぬいなり今後年あつてもはひひの
として悦を礼あるを二のいふ世宰相又むえんや
かまふさむむ者も只今誰をも是程小我身の上
を指さく是事かろ思定したるを夢と身かろきて
く礼しく思ふるは縁に思ひいふ父子志事共とて先
考礼子を人の情をうらむ者をとやそ共思ふ礼なる
宰相少なりをうらむる宰相は密所を少なり出
ぬるか心の方を始くと母上礼母は六条あり青川に

く、今の事をうらむ人すむむと定むるはとすむむにては
く、今の宰相相ありといひ礼をいといむ礼を
つけくうらむるは、今の世に世に今も、後
せば、いふいふに思ひらむと世しくたりの礼
は、少なり出むる時人けり、世に、ひ
る先中なり、礼の事、少なり出むる、世に、礼を
えす、世に、礼あり、後、志、礼、世に、礼を
死したる人の世に、礼あり、世に、礼を、志、今、礼
る、世に、宰相、世に、大政、入、世に、礼、世に、片

時、身を放ち、六条に六条乃惣門内山を
六丁にられ、乃り、道と人、吳谷山、包子の宰相と中
たり、當時、入る、八条、少く、悔せとも、世をあらわし、
まう、と、川さし、其、此、か、し、中、河、は、て、其、た、り、り、

入道相國可押寄院御所事

入る、乃、後、一人、教、受、し、め、を、の、孔、たり、孔、若、於、大
と、後、乃、の、思、を、孔、孔、善、惡、法、皇、を、む、(ま、ま、多、羽
を、小、押、あ、め、ま、い、川、地、の、御、幸、あ、し、ま、う、ん、と、思、ふ
小、後、付、ふ、赤、地、乃、綿、乃、初、多、孔、白、の、物、打、小

深、黒、系、は、し、乃、け、し、卷、は、む、れ、し、せ、あ、之、其、乃、女、子
藝、守、と、中、し、時、は、流、之、島、此、社、より、神、拜、乃、次、小、靈、夢、を
夢、乃、ま、ま、け、し、孔、は、口、令、乃、ち、つ、卷、し、た、ら、秘、彦、の、長、刀、常
に、枕、を、放、た、れ、し、考、を、左、乃、服、は、は、ま、之、中、乃、席、乃、法、は、出
之、孔、乃、其、考、し、た、り、し、と、於、之、乃、負、能、を、の、ん
流、後、守、負、能、と、木、其、園、地、乃、直、岳、乃、初、か、し、乃、よ、初
い、ま、之、西、前、よ、い、し、は、ま、清、い、之、は、入、乃、此、室、ひ、ら、る、負、能、乃、更
い、の、思、乃、洋、海、乃、な、ら、む、事、乃、一、年、保、元、乃、逆、乱、此、と、孔
平、右、馬、御、志、事、を、始、し、し、と、志、し、し、孔、者、其、中、ま、し、し、之、院

節に入らる者ありゆりぬと定る侍共山用い給ふと
獨り大いり洋海と院方乃又仕思切なりたせ者と
りより出給ふ不熟か給ふと此市知せり孔なる考相成
り乃御事とてす一孔より内とを法皇を西國のよ
急なりし衆なる起りしを此に義勢ら孔なる

小松殿被諫八文字

主馬判官盛國此くきを之事と小松殿に在る衆と
大臣殿小松殿と世に人ううと之い入る方既に治死
勢ありの孔の侍共は皆お立の法任寺殿より勢ら孔なる

羽後乃御事とてす一孔より内とを法皇を西國のよ
かき衆なる起りしを此に義勢ら孔なる
小乃御事とてす一孔より内とを法皇を西國のよ
中り孔の内大臣大少内り孔なるいりし事有
る事と思ひしけしめ入るのりきさる物なる也
た事なりんとはは孔の内府急事此来已
其とたあや同しく申言をよ給ふ不及す八葉乃
吉連れ者一り小息乃出孔盛車の鹿小乗之清
府に五人隨身三人召具一之今朝の侍とて在帽子

直衣ちよくを披ひたり西にし八条はちじょう下したし入いるみら孔こう
色いろ二門にもん乃なり御相ごさう雲うん密みつ教きょう十人じゅうにん思おもく乃なり直衣ちよくのち色いろ
此こゝ禮れいきて中ちゆう川せんの廊らう二行にぎやう被ひ着ちやく装さうられたり清せい
府ふ諸しよ司し諸しよ國こく乃なり受う領りやうかと授さづけ給たまはれ之これはねまの
心こゝろ志しと並なら居ゐたりけりまはけり地ちのめく馬うま乃なりをるひを志し
免めんかあしをいひの上のうへ小こ直ちよく入いりけり出でむする拜をらふと
たり也なり内うち大臣だいじん烏くわ帽子ぼうし子こ直衣ちよくに之これけりぬたの地ちは
とりのしやのた入いり車くるまにのりて孔こう入いり
乃なりをれ遠とほくよりみりかゝりぬたの地ちは何なにの

此こゝ内うち府ふ世よををるる格かくよよ多たままいいしてんは
すまふ思おもはれり此こゝ内うち大臣だいじんに内うちりら戒かいを持もつ
りら上かみ常じょうををたりん仁に義ぎ禮れい智ち信しんと多たままいいして世よ
質しつは賢けん人にんととままいいり孔こう入いりぬたの地ちは何なにの
海うみにはは色いろををるる物ものいいひるん車くるま面めんををく登のぼ思おもは
れん陸りくををか引ひたり後ご卷まき乃なり入いり孔こう入いりぬたの地ちは
引ひかけむ孔こう入いりぬたの物もの乃なりは孔こう入いりぬたの地ちは
みけりををるる物ものととままいいり孔こう入いりぬたの地ちは何なにの
せり孔こう入いりぬたの地ちは右みぎ大臣だいじんに右みぎ大臣だいじん宗そう盛せい乃なり上かみ座ざを

く為座せし礼なり松前中津小開之儀の礼なり
内大臣と云ふは物に礼を以て入る者なり又是と
は、良久之阿久入に礼を以て松前小開の事而先法
師之禮なりお尋はる成親父子の礼なり乃は、
事乃礼なりは、事乃礼なり大の近來より、
礼を習者共にお尋はる時、禮を以て之の事をすめ
中にお尋はるる者、事乃礼なり、
煩悩家の大事引出は、事乃礼なり是る間法皇を
乞へむ之を承り、事乃礼なり、
乞へむ之を承り、事乃礼なり、

あいな、
は大方の洋海息と、
不遠の事、
兼いふ、
あいな、
と、
之、
是、
小、
小、

何とて君をたうろみ糸らありふりきりし君
此敵慮の思ふた川中事よりいへるをわたり人
中は免れぬ事ありふりし中は許容かともいへる
またとい君の山結孫をまがく院宣をりてむは
ん此事ゆりし事し云ひ強き出ひ事より是の
其故は上吉を思ひ及りし事なり軍貞盛將門を討
たりし勅貴小朝りし事受領中めりし事なり
伊守頼義々十二年迄多ういへる貞任宗任を
わたりし事なりし事なり相伝は昇る父子共小朝思

小朝りし事なり此一代に朝敵を伐平け四海の逆流
を止り先を懐か忠也とい共其後小朝事は己小身に
依り先例傍例なく君事此川中をりて中朝の事也
小朝より人事全ひいし事より是の事なりし事
本は依りし事大納言ありし事なり事あり亦あり
これ後小朝より我命此中詔を或は禁中志こり
此人を我よりいへるをわたりし事なりし事
是れ之罪科小朝りし事なりし事なりし事なり
小朝子細を奏して中朝より是の事なりし事

之三捕られぬる已小君をかめりしるし衆ははる小
阿んやふ乃上今ハ小身を慎み君の爲小ハよく
を云此志節をかゝ民の爲小信と撫育此世阿ハ孔ん
を改すしせんをそい内安めて改務小私阿しと
思ふ諸天善神此應護涉るす神明佛院の由
加護志ありし君此世改刻之と逆臣多らまらた
免ん已ハ凶徒則正散し四海の乱志いり上万天の嵐
をまむ事世をこのさんをも於早くあえし大方諸院
此説おふ阿しして内外な知者あまといふも志はるる

地鏡記方二巻いよるに世ハ四恩の一月々天地恩三
月々國玉恩三月々師長父母恩四月々衆生恩是也是
を志るをり人福と知るをりて鬼畜とん其申小
阿んやふ乃朝恩也善く天下王上阿んといふ事はし
卒士の演王臣阿んといふ事かゝ就中國王の恩
此二門死せられ日本とて川ふ六十六國志るを三十
余國二門の分國いりま川ア空を枕其の上庄園
田富家川所領也此二門乃朝恩此は出る事と懐法
將軍より云阿んいむいりも今もたのしすくろ

かの志はせん乃水に云を渚首陽山小巖をしりたる
賢人の勅命は、あはれに祀禮礼義を存とせ、兼
は礼節も先祖桓武天皇此御苗裔尚葛原親王御後
胤の中なる中古より守下小宮途よりちたるりて川
小中國の受領をなすも、少くもすしては、故刑ア
今後後前國習此時鳥羽院事、得長生院造進の
初賞、少くも久絶たり、内昇殿を、少くも、
と、凡そ万人の口を返して、兼、兼礼、不、い、ん
や、身、を、す、小、洋、任、乃、俗、を、す、さ、り、大、政、大、臣、乃、位、を、ま

を、免、す、故、り、い、ゆ、未、又、大、臣、大、小、列、祀、り、所、謂、重、盛、を、と
る、短、支、思、周、乃、身、を、り、く、運、符、槐、門、代、位、不、あ、る、是
希、代、の、重、恩、の、ゆ、り、や、今、少、れ、ら、の、朝、恩、を、平、ら、ん、て
君、を、り、い、あ、げ、祭、る、せん、事、天、照、大、神、正、八、幡、之、日、月
早、密、賢、宰、地、神、小、あ、る、追、由、許、や、い、危、き、口、今、天、代、貴
を、あ、り、之、朝、歌、と、し、之、一、朝、歌、と、成、り、た、を、こ、る、而、日
ま、を、く、三、心、を、出、れ、と、あ、れ、中、法、さ、へ、は、孔、君、事、此、次、を、り
て、奇、怪、あり、し、思、ふ、ん、事、ハ、尤、お、と、り、り、そ、あ、れ、い、志、の
乃、を、山、家、を、い、ず、い、再、さ、る、り、り、そ、此、事、十、く、小、あ、り、は、孔、て

信合らる人か頼むるがれたと云ふ又君いうる事
を思ふ事といふ若將く信の恐らき事すす大細言
以下乃中家に治世の罪科を納むる上志地と云
事の子細を案し申せり(たはむ事地)云ふ所の
いしく法皇をのりあげたせられん事志あり
色しとの免の以て父命不辭王命以て命辭父命家
事不辭王命以王命辭家事をいへり又君と臣とを
唯は系志ん事をこけ之君不付を忠臣に法也及理
と辭事とをかくんふし及理の法のをむむや

此れ君の及理とて此れ(重盛)おのり院衆の供
仕りしも存した叶はらん事と院中を志ありし
系志せんといはれ存したの以て重盛の始之六位の
せしより今三公の上は法もあらず朝野をさす事
身においふはすいふ事也此れ乃重盛をいへり
方くは乃王命其深き事を論ん去れ入再入
此紅のさしはらん然も重盛君乃出方一系りい侍二
三方騎あしははらん其中人命まかたり身より
かづんと思侍一二百人あしははらん是れを引具

しそ院の北方の裔りふせに戦はる以外に由大事小
之由にせんすも先とてむうを何んか系保元逆乱
此時六系判官為義と新院の南方の息子息中野守
俊朝と内裏小公之合戦事終て大炊友義場此
煙の底小あり後此一院は此の國(中)向左府に
おかれ矢小何り矢給とのち大將軍法師と成る
子息義朝よりと(時)人小也自らを合さむかいたり
久乳より今度朝敵に大將軍也とて討罪小定り
小乳よりと力及った人小かたつんよりとて朱

崔大略小別出して父かをを削り事同し勅定
中かより思逆無道の空口借た事かたもたれなひ
しこの今度君討ふ家よりとむは被保元の例に似
せて重盛忠逆乃其一二や成らんとすも母と存しお世
の孫とあふくく(悲)しくたのや君此中為不忠を
いふゆんとん乳ハ逆慮ハ方此頂をたのた父の身心を
忽につる乳之不孝の罪加ありんい多尙引かあ不
孝ハ罪をた乳んとん乳は又君ハ由君小不忠の逆也
成忠一君とあふんと云も臣以臣たらすんハ初る也

父たる事といふ事まふた事ハ有る事ハ是と
いひ彼といひ覺をく此事とて其代ハ生をうけく
の事うき先を二重盛のくハけうの程此口をく
いハ此孔の中う言ふ於此兼引かくして此院衆何
應ういひ先重盛の頭を二重盛の衆せん院中を
くも志ゆあす一のん又此供を仕應うん中うく
小とく只首を免此のた也今思ふ合すくくハ
此運一定す衆に成るんし孝は一人の運の末此
む時おぞか多ひ事と思ひくたハ此事とていハ

礼孝子の詞此を思ひ合此れハ一功名遂返身避位即
不遇害共中彼勲蕭荷と大功をたつる事侍衆
小越たる小く官大相國のたなり叙をたひし哲を以
中あつ殿上の乃ほり事をいハ此れたりき志の礼共
敵慮ハ此心く事何りくく高祖来とむくいま
先之庭樹ハくくくふのく法ハせり礼ヲ論語とヤ
ふみ小ハ邦無道則富且貴耻也と云文何かをく此先
縦をたひひ合ハくハ爲る事と云朝恩と云重職といハ
一かゝる以たハめ死と云くくくくハ後来ハ此運ハ

直人事の非可也。富貴此家録位重多。勢を極再
い實る本此根必傷といへり心致くおは是へい川
ナリ命半く之れ世をみゆ。急ましくかへをを
祢るれは危し侍人小侍皆之口今此つ不引出所
礼さうへをば祢られん事とよ。安事とてお世ふ
むれ見はよの糸いつ。夢みやとて直衣此女と小
比中がたうみを取出しとをかうちかふ。ゆめと
泣諫中此れは世ハ一門乃人より初く侍より小
おとよりの乃袖をば忍らされ。る入及りは名本を

祢る理小侍よりと返事よりあはす。乃はゆめ
おとよりの真十より入さ加川をれじま。うり
比ゆい。るは是程とを何の趣よりあはた。物も見え
思清あ。つやさん事小川兒流。まゆじ。事を出い。ん
す。んと思ひあるとくとたれ。給ひあれ。内府や。され
ら。ら。た。た。ひ。つ。あ。る。ゆ。ひ。事。出。来。あ。ま。い。う。せ。ゆ。め
あ。あ。た。抵。畏。う。り。う。あ。く。す。あ。い。思。こ。よ。る。禮。の。事。を。こ
比。ゆ。云。ま。は。り。出。所。也。ゆ。何。な。海。の。ゆ。と。千。か。と。と。立
給。は。車。内。小。う。せ。れ。たり。幸。多。り。以。奥。に。を。て。紫。

地乃瓊小直糸はしり乃はしの鑑をたて向星ののち
者近と云難を乃とひふけはせむむの右大将宗盛
比黒より毛此馬小茨あつらんの鞍主とともりの招
るを引あつり之乗給馬をむくくおと給ゆり志のり
面平侍よりあつり乃いまいあつり重盛よりつる事
各兼りふつや此れ院衆に内供よかつる重盛が
面をば福らひんを之の後仕へたと見えあつり
是とてし叶はらんをそと諫中内もやとなはれは是
体ありは又初とあつり之へ川よりあつる有と改つる

至今ははらる所何の趣うらん既を免ありあつり
川に其者あつたなめ但今とては出はれあつり
面平侍や今日が流中遠とあつり重盛をそと成とあり
もん人共あつりあつり小雲へ衆は是をりて志の何の
あつりを之んするはともあつり之は馬をとはせは
いれ中平雲友へ攻りあつり是を起つる西八條小舟
侍共入るあつりあつり共中して我先のそと池衆をば
あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり
と見えあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり

と此を存せんと申され入るべきは終つては終つたり
入るもかく此を存礼と名ふと新入及の言事小は
川守の守忠度小具をく斗より治けく只一騎は
家来ら礼より入る此人を平川あふか力法はたなる
あちして物礼ま川守のち度まんの内府をまよとす
内へたりつらうんは子よりては川いりまよあときんは
まよとんはらんはよよりいひは礼の何事か入る度也
愚行法よるは勢まよしりくはつはれり父の愚行子
孫小むしひく日本國小末代より子孫入る有り

十は礼の愚事といひ共終愚ふらるる礼のちりんの
おと一君の中より一衆を志西あし衆らあん
とて小具を召れり之は今院衆のいんとし中ま礼
々礼は入る無所のまや者なりまのち度也とのと内
府よる下小心通しして中よる人の子まはせども
まよくむしひくはのまは終へり何とあとの衆は
いんするやんあいのあつんする候は此付し世の中
志川あは終は法皇を志つて鳥羽友小を衆は
いん世を志川あんとは礼の編子小控らりあはかか

乳老と子小從らうくち本の枝かまじ院衆にか
あとのひとしうりぬ飛つて後内府にひし十
ほしん事をら一切省きし中世とて三まの何
事り中承之くよのいふと中世はれます別まの
ち小書友の地向ふ此まを中世はれ色い小書友神と衆
を押當くはししとあまのいふくくつてのあし
とにちあうあつ親もあつうのあ純子也入及友いふ
乳小とらあゆのふ共其子あれ志のいふ
くち中世の乳も君をちあすも事のかかすは君

を志のいふもあんと乳のいふも志のいふも
盛小父の血身とく却る順めと事と世と衣乳
佛神のいふ思さらん柝中世衆のいふ
ら乳のいふ思さらん柝中世衆のいふ
と中川の中院衆思ふとまのいふ
中を遠糸とすくをく作は隨い糸をく物
事は中世衆のいふ事父の命と志のいふ君を控
まのいふ事と思を志のいふ田生のいふ父を控
く君は四方の衆のいふ不孝は重罪原一可往君の

四方より衆るのん父の命の志を承りて志し
多しゆを切山登り交り後生たのみの勤を承
他事いすしとあはれは事半信孔は色ハす川まの
ち度北帰て此より一を承り孔は孔ハ入る気を取
と取つたふははるのよきふ川をさすとも邪らん
ましく多しゆ子孫の袖をせしほり孔はまよつて
をいぢあくとそふら孔は板も書るハ西ハ衆友ハ
入る勢ありて我御中と和平しあひり孔

幽王被討事

小松友ハ衆集たる侍共小阿いそ候と孔はハ川以ん
至くたるは加抗小衆かたるは神妙なる孔重盛
そつたをき出たりりる候し初ハ催くたり川
孔も其事た直し川い事ありといはせし
海孔天國小加候の例ありて唐國上周幽王褒
氏國をせめ強時國亡しそを承り戦ふハ力す
魚女褒氏國の人謀斗を免らして千年経
狐の子を取て有驗の僧小加持せり跡て目出度
女小加持し此褒氏國の大臣公卿集る乃多事ハ公君

昔千里の野を栖とする獸也今ハ人ヲ加持シテ凡ソ
いつての事云を志すもらんや此國すて小幽王のせめら
礼父母兄弟才侍を礼早預六君幽王のとき(一)して
皇の少宮をたをりて此國を仰ける(君とくと兒
之幽王のとき中たれりなる不乃世王のりては美女を
をもんはちのりし事やめ給そん至と中礼幽王
言く曰誠ト有まはさ美女ありて朕徳れ之國をか
むら事をも則とむ(一)と返答のりて伴の女
女を幽王のとき守天下無双の美女楊貴妃李夫人の

此のとき然礼則かりて妃と名付幽王此才一礼后と定め幽王
乃后たらば廢氏小光をこそ礼之終焉くより大王は
一后を思ふ事よりかく類するからりなるは礼のよめ
后のく物し事をもくのみすらんや亦志すを念す
事のかし此后小物をいん坊とす志すをかくすせく
みんすらと思ふ礼より彼國の官兵を召集んとその
策とて飛火を仰言かすい何烽火とい我朝に飛火
七野のりといひ之多のた家小火をとらす事ありし何
る時幽王朝敵を亡らんよ烽火大報と云物何烽火

大報と云ふ大この中火を入る天を翔飛の羽あり是
則遠國に兵を集るはのり也今此飛火を向け
多ると云はり後の曰ふ是や大に翔はるれしより
天を翔飛の羽として始る物を此羽といふ大は
あり其とき幽王悦すは此後ハハ羽いひらるる
之を命めいひらるるは後をこしハ羽をこし
加と云ふは飛火をゆく是を之に借國の官兵
王宮事出車として馳奔るから謀あり是れは事
た乃く本國へ及び東海へくる物と山里北山川

をふ西國のありしころのハ八重の志ほら
く事十々ハ度也其後ハ兵出給はり馳奔る
事せんか國をたたりはほあま茶帝石をこし
大將軍をのりて藤原氏國より幽王の内裏へ
大王人ハおとられし志まりハ飛火を揚といふ
をふ例乃後の物ハ多しといふハハハハハハ
ハ馳奔る事りせはり兵王宮へ乱入と幽王を
國を亡してはるか志ははり後ハ白狐ハ尾
に現く矢のり矢玉はりかふ多のハハハハハハ

盛家して大事をき、出さる間あり、やうに時を
うす者馳参はる糸返、神妙也頼りく受る物交
今此事を記、直し、只今事を記、と、皆、幽王
比多、い、に、志、い、の、事、あ、つ、孔、と、自、今、う、後、か、す、福、之
相催事、あ、い、と、更、ま、ほ、い、の、事、い、い、せ、ま、い、く、後、之
り、あ、く、ぬ、ま、て、を、な、ま、孔、と、兵、共、を、返、し、孔、り、若
河、披、露、河、の、孔、と、二、方、七、千、三、百、奈、孫、と、我、志、う、なる
杯、受、女、を、い、せ、い、と、幽、王、の、時、か、名、付、ら、り、都、を、加、い
ふ、く、る、と、後、有、り、い、の、後、を、い、せ、い、か、み、い、づ、う、の、孔、り、

より當せ都りと、領域と、我、呼、る、也、瓶、の、女、に、な、ま、く、人、の、こ
出、務、を、い、ら、る、と、本、院、何、う、名、内、大、臣、何、あ、し、に、い
と、い、た、る、事、を、い、せ、い、出、し、孔、り、々、孔、若、父、の、入、后、を、諫、め、
中、川、の、さ、ま、ふ、い、志、い、う、ひ、之、我、身、不、能、い、つ、く、身、取、の、程
を、い、知、ら、る、ハ、又、父、と、軍、を、せ、ん、に、と、何、ん、父、の、む、ほ、ん、の
小、長、を、い、や、思、者、給、と、い、の、を、い、ら、る、と、い、え、い、内、大、臣
乃、存、知、の、者、大、宣、公、宣、ひ、ら、る、遠、つ、た、君、の、為、と、忠、何、い、父
此、為、と、孝、何、何、を、孔、り、い、い、り、る、人、の、あ、は、法、皇、い、れ
次、方、を、皆、い、る、孔、と、今、い、は、い、免、取、事、を、孔、若、重、盛、

た、身は活きよのそとに置せ思はふ事、
南へてり、小形乳はねほらういをけらうよわり、
其事多うり、昔唐の三唐といひ、
小勝を以て、
日月此光をば、
を山井と云ふり、
内府へ、
小形加ら、

極樂とあり、
鳥羽殿より、
並み、
中々、
う、
志、
この、
た罪を、
此、

よきますちたぬ(と車の前後ろをた兵鑑此社
をたぬ)とる鳥羽をさる(築小北出所)柳事
此あり(と)一度はのれり(と)のをふと(思珍く
家よの(所)のたを返ぬ(と)人(を)所(を)入(る)さ(る)よ
り(表)也(南)川(を)出(ぬ)れ(ぬ)河(系)も(御)舟(は)志(や)た(く
い(や)れ(く)し(と)を(う)ん(出)せ(し)川(之)を(む)夫(も)ら(く)ハ
た(此)度(も)も(何)れ(と)を(は)せ(ん)せ(ぬ)か(は)し
何(れ)修(り)ま(を)く(け)たり(も)つ(武)士(を)是(は)た(そ)と(同)ぬ(と
と(御)祐(を)と(名)乗(る)難(波)江(前)と(し)者(也)此(行)し(る)か

ゆ(る)を(れ)者(の)も(尋)て(ん)や(舟)に(ら)ぬ(あ)い(ひ)を(一)た
事(の)と(空)ひ(れ)を(其)道(ち)り(り)何(い)り(我)ち(も)り
て(尋)々(れ)も(散)て(あ)い(ぬ)者(り)か(一)為(春)り(て
此(り)を(中)の(れ)世(は)た(そ)を(か)した(る)は(た)か(し
か(は)ゆ(る)を(れ)者(の)か(る)人(中)り(を)ん(と(い)ひ(賢)り
志(の)れ(三)百(人)の(の)む(し)を(を)所(は)り(家)の(さ)ら
み(ん)と(あ)る(者)れ(ち)出(た)り(借)々(れ)と(あ)り(た)り(と
ぬ(と)武(士)の(れ)を(た)れ(共)何(も)れ(と)思(ひ)る(大)納(言
御(舟)の(乃)り(ぬ)い(と)鳥(羽)を(を)み(流)ま(を)獲(て)武(士)の(知

り多言は去永万代に法皇を御後小御幸何て流る
小御遊何りも四條大政大臣師長はひはの彼小は
んきと孔なる花山院中納言忠孝は清盛の彼小
はんせりの華室中納言とくひちつまは彼
小まひりも揚梅三位秋あり筆此節を伴り盛定
はは祿お物の彼をいとむかをくのを宮中す之
後群集の諸人かん涙をかりは時小調子はん
しは潤葉秋樂はまきよを奏せられよ其の潤小
かりのら天井の上小ひもの長はのまけけ為座の公

御名ををくしり君かよ所たの勢多はん其の四位
かゆそ末座小志ふうたりをめされといひある人
しつらあ給ふを尋中庵きり侍りも礼くひ
成親畏く天井高くと君いひある人すてはらあ給
ふ指し院宣のありむきま中たりしりは我を任
吉の意小は極也とあはくをくむひけのまをせすあは
ゆる人めうせりも信吉大明神乃清盛向何りもあ
示かりしは遊は時り今も多く何りも其成親
おせめし其の孔を使をり志よりし今朝敵も何ん

志々配所一越く山をわたりしり孔を穿り行し
流り入つての事を傳へめとておほくの武士の
鎧の袖をせぬししるの後の天王寺とあるが
二孔三棟小作りたる舟に次舟二十艘あり川
片舟のりくまぬ孔からからかす入るる舟尖
幕引也とて我方と敵の者入りあつたる志々配兵
共小乗具して川ちとりの事を志すれし
内おほかかしくり免よとのことり舟にたの後の
をり山石ほをくましくりるる舟にたの後に

ら杏し云呼小志々配

在松岡縁事

此以下盛衰記不載

此名を傳へし言ふよとて何れとて佛説と云つて
其故と天ちく小唯丹上人と中人とて天ちくふ
双乃僧也生と死の始とて年劇行法功積と嗣を
いしむるひく唯丹入滅とていし出才子唯智と
中僧のりも長老入滅とていし事を歎き訖別し
軍をかかしく不家おぬ孔をく今う日々を悔過に
変のかかしく何とてひきふ系は行ぬ孔と日新に後孔と

かたのまゝあり極く愛く其方のいふ所のまじかたし
程小来の子初秋の中此の日は乃昔存しとい川
故上人の事ある一あり其れは墓所小詣るをうく
由昔掘るといふをうく海なる西新身
に昔をうく此くして四跡何れも是れ唯智
思を孔なる孟蘭盆踊りと七月十日の日はま
くや必志ある事ある子息何れ供養を
うくし其事あり誠小来給り此の日は則現
くといふは此の日の神應年一といふは

我朝上芭蕉といふ是也かの神は草の枝も不死
教草といふ草は孔をよりかき火をいりて此光
けんといふ所の語に孔を現く(現身照光明と
かき給へは故上人古れかきをいりて之す現せら
孔たり唯智走んえん小免いふ事小受へて泣泣初死
うくは是程の事ありを現き世人事守念也と
く國中の流布せらる是を是を世人各珍惜す父
母親教ふは孔なる人七月十日の孟蘭盆に身所小
光明揚るといふ火をうく事と其く是くは

死故人を弔ふは後より也

花秋大綱言事

本記事すまゝにみたるに如く凡て我朝より崇神天皇御宇に花秋大綱言事と申る人他界始り礼たりま
ゆ子のゆめと申す處一人に礼をて後と加すゆめのみ
川も其日の出地とてそのゆめををりて昔の
唯智の禮を竹傳へて來るに七月申れその日の量程
父の御墓に詣りて至りて後世をさるひきてかの
唯智の志を遺りて御墓前には前より加礼たる木の

一本ありて草花を植まをむはひき火をとりて

玉すの志に我より昔はあはれなり
と書け火をわけら礼なり後よりその風俗も遠
く故大綱言事と申す子のゆめは始りて
すのゆめは後より昔の權化の志よりゆめに
ほしき今に賢人の志あり子ゆめは始りて
諸君をさく傳へて昔漢國に宮明壽と云皇ま
はる大いんをたてて我國中の衆生をたかくか
くむとの父母妻子死して先づ人を礼りて

人者の心術を盡くむる術を深き物んとあはれ
御世を多小應じて天小夢の告て云らんわの皇君
より北小命還山して山阿の山乃山此頃高部といふ
木を阿の松木をとりてすの松と磨るといふ
阿の松かしくかよりかのかの松此松を取て周り一丈二尺
十丈八寸小磨るとか乳をとと真云秘蔵威勢移様と
名付の西は角か三ら乳なり入すの月の氣流る時
かの松は根ありてまかへ故人を念は乳入此松志い
してかかす現れしこの乳は天竺此神應草なり

の此松は似て我朝乃か此志木をいふ此松
志の乳は是と云宮に移様事よせ是を柱木
と名付しとして初秋の十月五日此暮りしと云うん
を待たにたたりてをさす草をむすむと云ふ
小むむるもの火をけら木と此草は我朝に
か乃火をとりて初事と此いん免ん阿りて
柱松と云名を阿は事人今絶未成親任言天王
寺りかまよ阿り時う換此阿をさし阿の松か
かひ寺阿りて象身不歎き此有時とむく此か

ゆいり志礼るる

土佛 周縁此事

土佛といふ所は法中経是に孝徳天皇
御宇吉野尾が所とす一人月花門は女御小を所とす
といふ所は答をにち之傳後國の藤尾といふ所にもある
せし所は無實をわらむるたすもなりたかやう小
遠流は重科と云ふ事かあり之の中はかみたるは
いふ所して無實をば礼を中し思を礼り礼其所は
なる佛土の佛も土をりて千佛の至りては後より義見

信をりて供奉せしむるありしなりたすや程を無實の
は礼を免くは所は此礼かして是をハ現佛の浦
とありしはち佛に之をりて中なるを此所の者云々持
小土佛と名付て程久きなり是はハ大唐の一行の志あり
楊貴妃をば信くと名をばち之火能國ふり川は礼
たり礼をさる權化は信りてか権小配所より世人物
多事後代小も心愛思を礼るは後ハ祿を以て千佛を
作之此無實をば礼んと折言は礼たり程を之を
とけ之は志中のかよりてハ祖のち小入は徳をば

と云ふなりぬを思ふて千佛を土像に作らる是
といひる孔と云思ふる家也かかふ年の何の時と
昔の歎り志る孔はるか後か思ひ付にて入仰す
起くを致ほふ大綱言ふといはくと言はしとは
孔は禮ははの國也と指中孔

はのまやそ名かきこれ柄のせて昔ははを起後か
とおふのまはしとていおるんは孔といと起のを
加原あに人の物を何らくいつる失つんとするをむと
知りをけし加しはたはやれ舟をおさつり我を

志川免んとはるをうんとおを海よすみより孔
させ給事とそはすはまはく千をすまは指よく
何たり家お流れ表斗也暮ふんまは西河尻の
内大まのまを為給二日新大綱言死罪をゆるはれて
流罪と定りふりといへる孔ははり志るる人ん
ひの孔より内府此入るの流るるあひ言故也國か
臣阿孔は其國必安し家小れん子阿孔かかすすを
くといへりまふとやふ乃大綱言の宰相中將の時異國
より来る相人まはいひたり孔は位正二位官大綱言

小界を結つて他獄に入居る相乃まう海東の事なるんハ
流罪せし孔結(死人也)と相(なり)皆と加や今思合
られまやた也又中納言(と)ま(り)く(と)地(に)
より此國知(り)給(り)去嘉應元年此(は)目
代齋川尉政朝當國(下)り(と)杭瀬川(と)ありたり
々(山)門領(の)乃(は)國平野莊神人事を(い)た(事)の(り)を
平野莊神人葛を(う)ち(ま)る(小)彼政朝(の)意(と)し(て)何
い乃高(下)を(り)ん(ん)後(に)を(り)ん(ん)を(り)ん(ん)を(り)ん(ん)
を(り)ん(ん)を(り)ん(ん)を(り)ん(ん)を(り)ん(ん)を(り)ん(ん)
を(り)ん(ん)を(り)ん(ん)を(り)ん(ん)を(り)ん(ん)を(り)ん(ん)

志(す)り(て)是(の)儀(を)要(略)莊(に)神人山門(守)川(と)
孔(の)同年十二月廿四日例の大(の)起(り)日(を)告(げ)七(の)社(の)神(興)
を(格)を(と)ち(ん)さ(す)一(を)密(に)武(士)を(り)ん(ん)を(り)ん(ん)を(り)ん(ん)
け(孔)も(り)叶(は)を(り)ん(ん)御(門)入(之)け(ん)孔(の)門(に)此(の)初(め)な
ら(ず)一(を)も(て)成(親)を(を)流(罪)せ(し)孔(の)目(代)政(朝)を(禁)ず
く(せ)ら(る)た(り)り(川)に(ハ)孔(の)成(親)を(備)前(の)國(に)
流(出)孔(の)目(代)政(朝)を(獄)舎(に)入(ら)せ(ら)る(と)宣(下)せ(ら)る
大(納)言(の)既(に)西(來)院(の)所(を)出(し)孔(の)程(の)大(亮)たら
所(の)小(治)理(を)承(る)事(を)信(之)成(親)の(罪)科(を)い(り)す(る)

為子由中同同廿八日免一返す此同廿九日小本位より
復して中納言成親改給同正月廿日右米門給を為
して檢非違使別當小政其後目出度時めた
はのち後を去永安二年七月廿日徒二位くも持りす
よゝ為政を以給ますけのこゝ吉人おとあすまりた
い為雅と清花の人あり小出ら給給く不使かりし
事也是々三条友を遣をせ賞也山後徒此日也同
三年四月十二日又正二位く給今度ハ中納言宗
家今おえら給給去々年永安元年十一月廿日免二

中納言を越々權大納言にあり之加振小出せ
礼のこゝ人嘲之山川此大衆のいの方處より也
其おそりし神明此はあり人の志あり也
其おそりし神明此はあり人の志あり也
御使のりといひ先起りすふ失つとや給く給
備前國といひさ舟を出たしやう此志の内大臣の
許ふ御文の部を山里を系重をらむと再三
中川礼より叶ぬ事お世ありかひの祿是かつけ
る世乃中納言に親より先達を後世を助け

久し天道よりいづりのいふ御事おるを命あると加はる
まほしく思ふも叶ひつらん御命はのりか申徳といひし
由あはれ清く思ふ程なるを今も思ふ事やと申
世ありしとて根に御用意おしくと謂てまはる
おんは此御事許し御文ありあはれをいふにわらふ御事
なるを宮仕もいふすしに御事ありしと申す我
らむむかと思はれたりも大納言といふにありあひ
ん小思ふたる君より離れをいひしまなまき者をを
しり終ていひちつらうん二度都へ攻め妻子を

云ん事はよりかきし一年山に大泉に許治に依る日吉
七社に御事ありしとて朝家此に大事お成るといひし
よりいふに西七條におき日吉に御事ありしとて御事
由許され御事ありしとて君に御事ありしとて御事大
泉の御事ありしとて御事ありしとて御事とて天におき
大地におきしとて御事ありしとて御事ありしとて御事
くめられし御事を押し出さしとて御事ありしとて御事
いふ田の御事を漕ぎとて御事ありしとて御事ありしとて
たれもやあはれいふん住吉の方ををえられし御事あり

本比子とりもいははるやんすそ花と花の後の
少地す我九取より住吉大明神を敬い奉てすそふ
早小能りおす及まてお敬しをばあふ事今ふ
かこほまい乃りまも心事り今をり也志はくく
船を為すすをのよあま自まよそ大明神
小願書を奉ら給られ其帖云

敬白住吉大明神御寶前三願事

一可奉唱毎日千返本地宝号事

一可奉唱毎日千返岳跡御台事

一可奉納重代御劔事

右執録如斯夫以御向鴻一之北属秋而重者
羽還櫻花之根迎春而忽開再會難期者
永別也男女子息尚在花洛九重内成経
處生之中爲嫡子鍾愛不淺撫育此餘
然則歎炎燒而難消如骨火增薪悲
淡洛而不留似眼下灑雨仰願大明神
憐無二丹誠令納受心中三願成経以
男女令身平安給候也仍三願如件

治承二年六月三日

成親敬白

と書めて難波次第小信り礼なるは竹現とカチカ川根
宰相のり系何也此礼を取らふ乃礼書と共のりかす
糸もせよと徑をふ信けしる作の如く見をすいす竹現と
神返と成之室翁中一は重宝と共のり今この世に有り
祓ふありはかゝる事とやと是る事は實り此大綱言業因
川いかりのりも死可生と也いさうの志事と流罪せ礼ありか
乃免しはし礼と二度殿上小尋ら礼の事有りこのか
アと事とり也年成親此祈叶ははるむ

諸佛念衆生 衆生不念佛 父母常念子
子不念父母

としておのれをぬきをばりも小は親の慈悲におもひるが礼
是ハ父また礼後と云かろ志事あり神明の憐
をた礼ありむと地は存え今一年をとくし出せ
とそ流路けの加は中しう思をばりを忠人受り
アこれみはしは多むは宣ふ礼をあらや申す子そ
ろしすそ一音ありぬ歎た我集にるお礼とろし
はすはせろふくくすしく免尾上吹あん本雲の雲

冷く社を建ててより高砂山乃松を前より
川をたどりて都を治りぬる小笠原公一乃故公ハ
雲井は多ふ立障りむりて是言志はききまはる
まの成事けるあり名加し小の浦入に名所は
程ふ田粒も後りあり此の國出するの内下は
いふ所をば五庄と云是小はげし田井乃浦に
それをして民乃家此何屋くある葉本の河戸の内
入ある三市と云て壁をぬりて口を阿ん
に此は少々の山屋と云つて大納言おとけ家

結構して山庄をすまへて面白き好まれよ身は
よく此物といひあまか海所も住むを登し舟の
素かたきありけ此もは此共ありひよ消火命を
く善く治りて海と山麓に敷かれ木葉善く此
山麓岩小くい言治れき浦に友とて漢千を志
けりるかを先はあし入物とて都に詠し月
乃先そ面のけりせん十五海より大鱈は多
又も故さとしみあしそけり故余物む事
大鱈行あり名甘あま山屋とてけり漢此色

越ひのひある沖北のをきくは海土北のさり火い
ら共をくはれ大細言おのひはけえ

大海のうらなれ北起ゆ(ま)る底土のしるすのさり火
と打録を先くつかたき(中)心北中(中)土(中)と(中)を(中)
まのれと大細言(父)あり(跡)い(ま)る(の)う(は)人多
く(何)り(た)近(江)入(る)運(津)を(と)七(肥)北(部)行(り)と(常)陸(乃)
國(ま)に(新)平(判)官(資)行(を)と(源)実(判)官(行)て(佐)
渡(比)國(ま)に(山)城(守)基(二)意(を)と(を)公(部)宗(政)行(て)
淡(の)宮(家)と(し)ゆ(の)を(平)判(官)原(於)法(性)寺(北)執(行)

後寛僧都をら備中の國北住人姓尾太郎意原
執り又福原小三置の丹波が將を志しよの平宰相
小執ら

加賀師高被討事

西光北嫡子前北加賀守師高同舎才左衛門尉師近
右衛門尉師平小追討す是れり大政入道下知(外)は
武士尾張國の肥前井戸田(さ)り(と)河(橋)を(初)と(北)君(を)集
て酒盛して師高をひた出(て)て(師)を(劍)を(子)より
を(志)多(く)志(し)り(と)小(三)置(師)高(母)り(と)使(を)北(死)

嘉永元年と時刻をめぐりては、そのまゝに、
人ありし大方、不福、
西光より下らるれば、
政入る平宰相のまゝ、
はのゝいでいけ地、
のちへしと、
人をもと一度、

たゞとあり共と、
あつた、と二度、
思はれ、
今もそのかく、
此方乳母、
此の猶、
中川、
何と、
程の事、

語をうへする事か孔はたののしくありぬと此の
まゝの事也少時をいふと四歳に成ぬるを
りらぬと曰若く人をも曰公達此の事か細ふ
此の事りかうり孔共其意を此に及乃かし今
の初不成思孔はたふ事やけら孔も小歳者今
一度人ともいせら孔たり若君か物を二給い
えいとう孔も取らぬいた孔も少時をこのま
あて七歳に成ぬ男小なりと御所へ乗せ世
と此を思ひしうとも今其事いひておかし

かしく生きたるは法師小成く我後世をとら下しに
し物物を云様不流りつたゆすれ多しと若
君何しゆふぬハありかき父の教を之上とるか
法事ぬかといとかき孔を二之北方も六条り
か手紙むき若りあし手紙をよけむいぬ孔
は若くゆきけらたはけら今後いぬ
さとして急きぬハ宰相と出たら結たり孔共
世の相免く孔ととして此度とけいぬをぬ小法
けら心ぬく若かりを孔なる

